

菊舎顕彰俳句大会 入選作品 大人の部 令和六年十月二十日 田耕促進センター

《賞》 《番号》 《作品》 《住所》 《氏名》

一字庵賞 菊七〇 咲くまでは二人づれなり菊の花 下関市 林岩雄

県知事杯賞 菊六四 おしゃべりの真ん中にいる菊の鉢 下関市 平川明穂

市長賞

天	菊三六	秋涼し懐紙に透ける菊舎の句	下関市	平川扶久美
地	雑七	本当は歩いてみたき案山子かも	大阪府	野口喜久子
人	雑一	研ぎ上げし鎌に走らす秋の水	周南市	吉浦百合子
五客	雑一八	月明り最期のメール読み返す	下関市	磯部多恵子
五客	雑六五	打ち水の珠と転がる地の乾き	周南市	山本礼以子
五客	雑二三	診てもらふだけの安堵や秋桜	山陽小野田市	段田晶雄
五客	雑六二	ゆあーんと中也遊びし螢川	兵庫県	松村晋
五客	雑一九	柿若葉水面は雲をゆるく溶き	下関市	小田正夫
佳作	雑四	朝涼し切れ味のよき和包丁	下松市	三野公子
佳作	菊八七	老ゆことも新しき日や菊薫る	下関市	恒富靖子
佳作	菊九〇	しつけ糸ほどきて纏ふ菊日和	山口市	松富愛子
佳作	菊一〇〇	運休の線路に沿うて野菊かな	下関市	木本栄子
佳作	菊三一	菊舎待つ田耕の里や菊日和	和歌山県	町田勇輔
佳作	雑二二	新しき名を得て熟るる秋果かな	下関市	内田恒生

田耕振興協議会賞

雑四六	夜神楽の大蛇を待てぬ寢息かな	周南市	河本宏子
雑一二	雨あがり梅雨明け間近夏の陣	下関市	服部俊明

ホテル西長門リゾート賞

菊二〇	類無き菊舎の行脚菊香る	下関市	内田たえ
-----	-------------	-----	------